



No.487

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

一般社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2019 1-2 月号

【新年挨拶】

加川純一理事長のあいさつ

鵜飼裕之学長のあいさつ

【紀行】

ヨットと私(第二章)

【研究者紹介】

ライトフィールドの光線の情報を利用して、
新しい情報提示の実現を

数日先の環境情報を予測する知的IoT技術で
農林水産業支援

【新聞記事コーナー】

中日新聞、中部経済新聞

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース





新年のご挨拶

理事長 加川 純一 (K49)



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、ご家族と穏やかな新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。名古屋工業会は全学同窓会組織として「大学支援」と「会員相互親睦」を活動の柱として諸施策を皆様のご協力の基推進しております。私も今年から理事長を拝命し慣れぬことばかりでしたが、皆様の多大なご支援を頂き感謝しております。

昨年を振り返りますと、2月の北陸豪雪から始まり、7月西日本豪雨、8月、9月に大型台風が直撃そして6月、9月に大阪と北海道で大きな地震がありました。一昨年に続き昨年もある大きな災害が起きましたが、名古屋はいよいよ東南海地震の可能性が高まっています。昨年被害に見舞われた地域の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

政治・経済の面では日本経済は緩やかに上昇機運でしたが、後半に入り米中貿易戦争が始まり、また中国の経済成長の鈍化などで日本企業間に業績のバラツキがでてきている様です。今年は消費税率アップも控えており景気への影響が心配です。

ただ、一昨年は北朝鮮との間で緊張が高まっていましたが、米朝首脳会談などで多少緊張緩和が進んだのではと思います。一方で保護主義の台頭が経済・治安など今後の世界情勢への影響が気になるところです。

名古屋工業会としては「大学支援」を事業目的の一つとしており、大学の進めている先駆的な工学教育の実践によって産業界へのより高度な人材輩出を進めていただくためにも、名古屋工業大学研究協力会とも連携し一層の支援充実を図っていきます。

さて理事長一年目で大学によく伺うようになり、自分の学生時代に比べキャンパスで多くの女子学生を見受けますが、今年は女子寮も開設されました。また第4回ホームカミングデーを共同開催し、OG会の「鶴桜会」総会も同日開催されました。工業会としても今後の発展を支

援していくつもりです。

また、学生諸君も課外活動で優秀な成績を上げられ学生将棋優勝、暗算でのギネス更新、ポートインカレ入賞の皆さんを表彰させていただきました。

もう一つの柱である「会員相互親睦」として、できる限り支部総会に出席させて頂いております。大学の現状をお話ししながら学生時代の思い出や現在との違いに話が盛り上がります。数年前から新入学の時に会員になられた学生が卒業されていますが、まだまだ若い方の参加が少ないのが各支部での共通の問題となっております。工業会としても会員サービスの充実を図ると同時に、各支部での若手参加を促進するために何らかのサポートの必要を感じましたので、検討していきたいと思っております。

一方で名古屋工業会の永続的な運営のため財政の見直しを行う目的で委員会を立ち上げ議論を始めました。今後、多くの終身会員の学生が卒業され工業会員としての活動や、親睦を図るための費用の引当てが必要となってきます。引当てを行いつつ「大学支援」と「会員相互親睦」とにバランスよく費用配分するよう検討をしております。

皆様からも今後とも工業会活動の活性化に向けた忌憚のないご意見、ご提案をお願いいたします。

最後に、今年の干支は「己亥（つちのとい）」で本来は順調な現状を守ることが最善のようですが、一方で変化がキーワードだともいわれています。今年は4月末に天皇譲位が行われ5月から新元号が始まります。丁度前回の60年前の「己亥」は高度経済成長真っ盛りの時代で現天皇がご結婚された年でもありました。ところがその年には伊勢湾台風が来襲し甚大な被害を及ぼしました。地球温暖化の中、年々自然災害が大きくなっている気がします。会員の皆様におかれましては、災害には十分備えをしていただき、平和で健やかな一年でありますよう祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

名古屋工業会 会長
国立大学法人名古屋工業大学 学長
鵜飼 裕之



新年あけましておめでとうございます。

名古屋工業会会員の皆様方には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、6月から9月にかけて大阪府北部地震、西日本豪雨、台風21号、北海道胆振地震など各地に大規模災害が多発した年でした。会員の中にも被災された方がいらっしゃると思います。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り致しております。こうした大規模な自然災害はわが国だけでなく世界各地で発生し、甚大な被害が報道されています。この数年の異常気象の影響によるものと思われる被害状況の拡大は、近年、地球が自制機能を失いかけている証なのかも知れません。これまで自然の恩恵を受けて発達してきた人類が作り出したCO₂による地球温暖化にその一因があるとすれば、軽微な影響の内に人類の手によって調整を図っていくことが私たちの役割と言えます。では、人類は？と言えば、ICTの急速な普及と政治・経済・社会のグローバル化の進展、その反動ともいえる自国ファースト主義の台頭などによって、世界を取り巻く環境は大きく揺らぎ、人々の生活も劇的に変わっています。人類の進化＝社会経済の発展、というこれまでのシナリオでは地球環境問題への取り組みがなかなか進まないことも要因となっています。そのような中で、2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、地球環境や社会格差などの問題に対する地球規模でのアジェンダです。地球環境問題や社会問題と折り合いを付けながら発展の道筋を描

くための17の目標と169のターゲットを定めたものですが、いずれも科学技術の革新と社会への普及がカギとなっています。科学技術政策と言え、日本では第五期科学技術基本計画で定めたビジョン「超スマート社会 (Society5.0)」がありますが、昨年あたりから大学改革においても、そのめざす方向性に必ずと言っていいほど「超スマート社会の実現に向けて」という接頭詞が冠されるようになりました。本学が目指す教育研究ビジョン「実践的工学エリート」と「工学のイノベーションハブ」は、この期待に呼応する改革方針であり、本学が工学系大学としてプレゼンスを発揮して飛躍する、まさに「天の時」と言えるのではないかと考えます。

さて、年頭にあたり、昨年一年間の名工大の動向を振り返りながら、今年一年の目標を述べたいと思います。

教育においては、教育改革の一環として進めて参りました学科・専攻の改組、6年一貫制の創造工学教育課程の設置から三年目を迎え、着実に地固めをすることができた一年でした。今年は、日本に工学部が設置されてから100年、戦後の新制大学がスタートして70年の節目を迎えますが、昨年、将来の工学系教育の在り方を検討した委員会の答申を受けて、久々に工学系教育課程の設置に関わる制度改正が行われました。主な改正の内容は以下の通りです。1)従来の「1つの分野を深く学ぶモデル」から脱して幅広い視野から新たな価値を創造するために、学科毎の縦割り構造を抜本的に見直す。2)工学系大学院への進学率の増加に伴い、多様な社

会ニーズに対応するために学士・修士の6年一貫制など教育年限を柔軟化する。3)AI・IoT・ビッグデータ解析・サイバーセキュリティ技術などに精通した人材育成に対応すべく、情報科学技術の共通基礎教育化と先端情報人材教育を強化する。そして、4)企業型教員による実務型教育の強化とインターンシップ推進、共同研究を通じたドクター人材育成などを実現する、産学共同教育体制の構築などです。さらに、人生100年時代を見据えて社会人を対象としたリカレント教育の充実についても、これからの工学系教育にとっての重要課題のひとつとされています。まさに、本学が目指す工学系教育改革に沿った改正と言えます。今年は、6年一貫制の創造工学教育課程大学院設置を申請する年となりますが、こうした新たな制度改正を弾みとして、さらに本学の教育改革を加速していく所存です。

国際化においては、研究特区として設置した材料科学ならびに情報科学フロンティア研究院で招聘した海外著名大学等からの外国人教員との共同研究が、国際的な共著論文の増加と英語による専門教育の実施という形で着実に実を結んでいます。その波及として、昨年3月には、オーストラリアのウーロンゴン大学と共同学位を授与する博士後期課程ジョイントデグリープログラムを開設しました。また、二年前から準備を進めてきました、ドクター人材の交流と研究交流を目的としたドイツのエアランゲン-ニュルンベルク大学との二国間共同事業の提案も大詰めを迎えます。シーメンスのお膝元に位置するドイツ有数の大学との間で行う材料・電気・機械・情報など幅広い分野での教育研究交流事業は、今後の本学の国際的なプレゼンスを一層高めてくれるものと確信しています。昨年完成した国際学生寮（NITech Cosmo Village）では、現在、約200名の外国人留学生と日本人が共同生活を送っています。留学生との交流会には多

くの地域住民の皆様にもご参加いただき交流を深めています。また、名古屋工業会のご支援による国際化推進事業によって海外で勉強しようという意欲ある学生も着実に育っております。このように、研究においても教育においても名工大キャンパスは国際化に向かっていきます。

一方、本学の強みである産学官金連携においては、昨年も順調に共同研究が進み、国からの補助金などの受託研究とともにイノベーションに繋がる成果を上げるとともに、本学の財政基盤を支える大きな柱となっています。教育においても、大学院での講義を中心に数多くの企業研究者・技術者を実務型教員として招致して実践的な専門科目を増やしています。また、昨年3月、名古屋市と共同で本学に開設した「なごやロボット・IoTセンター」では、社会人を対象としたロボットシステムインテグレータ、IoTシステムインテグレータ、サイバーセキュリティ対策人材を育成して好評を得ております。教育と研究の両輪を力強く牽引する動力源として国際連携と産学金連携を一層充実することで、本学がめざす「工学のイノベーションハブ」は確実に構築されつつあります。

本学の教育、研究、社会貢献活動にとって、名古屋工業会をはじめとする同窓生の方々との交流は大切な活動と位置付けております。昨年も、全国各地で開催される名古屋工業会支部総会、企業毎に開催される名工大同窓会、ホームカミングデーなど様々な機会を得て積極的に交流を深めてまいりました。本年も、昨年よりも一歩前進する大学、後輩たちの活躍する姿を同窓生の皆様にお見せできるよう、教職員一体となって改革に取り組んでまいります。名古屋工業会会員の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様によって良き一年となりますことを心より祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

紀行

ヨットと私

【第二章】 幻と消えた東洋一のヨットハーバー計画

山口 皓三 (C44)

まったく縁の無かったヨットにのめり込んでいった経緯は第一章のとおりですが、この東洋一のヨットハーバープロジェクトの破綻で私とヨットのかかわりは更に強くなり、ヨット自作とレースに熱中していきました。本章ではこの幻のプロジェクトについてもう少し書かせて頂きます。

「東洋一のヨットハーバー計画」

国民の余暇問題が国策として見直された昭和40年代後半、物流と臨海工業を主な目的とする港湾行政にもレクリエーションの場が求められるようになりました。愛知県制百周年記念事業として進められていた陸との対話をテーマにする「愛知こどもの国」事業に対して、海との対話をテーマに「東幡豆レクリエーション港湾」のプロジェクトが動き始めました。ちなみに、「愛知こどもの国」は、子供を含め県民の健全な心身の育成を目的に事業面積100haで県下最初の県営広域公園として昭和49年10月開園しています。

時代背景を見ますと、堀江健一氏が昭和37年マーメイド号で単独太平洋横断、昭和49年単独

世界一周。戸塚宏氏が昭和50年沖縄国際海洋博の記念レース優勝などとヨットが世の中に認知され始めました。旧運輸本省レベルで日本マリナービーチ協会が昭和48年に発足し、その先頭を走った東洋一規模の東幡豆港計画は、当時の日本港湾協会の機関誌「港湾」に特集され、日本の海洋レクリエーション港湾の核となる港として紹介されました。完成予想図は前号のとおりで、ヨット、モーターボート1800隻を収容し、テニスコート、プール、ホテルも計画した島式の壮大なものでした。計画予定の地方港湾東幡豆港は、沖島(猿ヶ島)、前島(兎島)、梶島島を近くに控え、漁業や幡豆石搬出の拠点として古くから栄えてきた港です。

陸との対話の場としての「愛知こどもの国」の海側に、海との対話の場としてプロジェクトが進められたものが「幻のヨットハーバー」でした。当時、当該ヨットハーバー以外にも県下海岸域4つから5つの海洋レクリエーション拠点を構想しました。知多半島西側伊勢湾に富具崎港、知多半島東側の衣浦湾の河和港、三河湾は当ヨットハーバーの東幡豆港、渥美半島の内



愛知こどもの国（園内を走る汽車）



幻のヨットハーバー計画海域に建設の「東海マリーナ（旧日産マリーナ）」

湾の福江港、同半島の先端の伊良湖港。しかし工事着工に至ったのは富具崎港だけです。その港も結果的にはプレジャーボートの係留施設が完成しただけで、管理団体も無く「海岸レクリエーション拠点」とはほど遠いものです。東幡豆港計画は、隣接する西尾市を含めて「西尾・幡豆広域地方港湾整備促進期成同盟会」が市町の行政が主体となった支援団体として発足し、地元漁業者の同意のもと、地域発展に大きな夢が膨らんでいきました。当時はこのような計画を具体化するコンサルタントもなく、行政とともに勉強していくレベルでした。コンサルタントも自主的に海外の実情視察をしては計画を立てる段階でした。国内自動車生産台数も年間約50万台程度で、モータリゼーションの振興と国民生活の向上でプレジャーボートも創刊して増加するものと推計していました。北欧では15人に1隻の割合でプレジャーボートが普及していたことから、日本でも大きな潜在需要があると見込みました。旧運輸省港湾局でも東幡豆港を「日本の海洋レクリエーションの核となる港」と位置付け、プライオリティーの高い扱いとなりました。高度成長真っ只中、名鉄三河線の洲崎駅が両プロジェクトの中間位置に移動され、現在の「こどもの国駅」となっています。構想レベルのホテル建築申請事前審査まで出され、隣接する吉良町内の梶島と吉良温泉を橋で結ぶ構想が出てきたのもこの頃です。



名鉄三河線「こどもの国駅」

この海洋性レクリエーション東幡豆港計画は順調に実現に向かっていったのですが、実施直前に、なんと計画海域に隣接する漁業権を持つ漁業組合の反対により白紙に帰すこととなってしまいました。この破綻は個人的にも大きなショックとなり、その後15年間港湾行政と決別する原因となりました。のちに関わることになった「愛・地球博」や「中部国際空港」など大プロジェクトに対峙する姿勢に大変大きな影響を与え、結果的に非常に良い教訓となったと感じています。

この幻のヨットハーバー計画のあと、平成3年頃になって、漁港に対するネガティブキャンペーンに対応して、遊漁船対策として水産庁のフィシャリーナ計画や、リゾート法に則って、愛知県、蒲郡市と民間9社による三セクが事業者となった「ラグーナ蒲郡計画」へと繋がっていきました。

なお、ヨットなど12隻の自作や世界大会出場までのレース活動は第三章で日本のプレジャーボート放置艇対策と合わせて書かせて頂きたいと思います。

〔追記〕 幻のヨットハーバーの計画場所となった幡豆町について

幡豆町は位置的には愛知県の中心にあります。いにしえから街道から離れ、漁業が主な産業な地域。「打たせ船」と言う、帆掛け船で風の力を利用して網を引く漁法が盛んでした。この地域の打たせ船は性能が良く、遥か遠く小笠原列島まで足を延ばしていたようです。小笠原列島を往復した「打たせ船」は、ある程度風上に帆走できる性能を持ち、和製ヨットの元祖とも想像します。その意味からも、東洋一のヨットハーバー計画が幻と消えたのを残念に思います。ちなみに、小笠原列島の名前は、幡豆地域で漁業を生業にしていた豪族小笠原家の名前から由来します。

研究者紹介

ライトフィールドの光線の情報を利用して、新しい情報提示の実現を

研究者：名古屋工業大学大学院工学研究科
情報工学専攻 坂上 文彦 准教授



「ライトフィールド」(光線空間)とは、様々な箇所から発せられる光線が様々な方向に飛び交う空間のことをいい、写真など平面的な2次元画像に落とし込まれる際には圧縮され、多くの情報が失われることになる。2次元画像に落とし込まれる前の光線の情報を持続的に扱う研究をしている坂上文彦准教授。ライトフィールドを直接利用することで新しい画像処理、新しい情報提示の実現を目指す。

◇位置と方向の情報を色情報に変換して可視化

2台の 프로젝터를ライトフィールド発生機として使い、2方向からの光を重ね合わせると、距離に応じて重なりが変化し、見え方が大きく変化する(図1参照)。赤色から緑色へと変化する逆向きのグラデーションが均等にまじりあう距離のとき、その合成色は黄色になる。それよりも近い場所では赤色同士がまじりあうため、合成色は赤色になり、遠いところでは緑色同士がまじりあうため、合成色は緑色になる。このように黄色の部分を中心として、距離に応じて合成色を赤から緑へと変化させることで距離情報を色情報に変換して可視化することができる。

こうした原理を利用すれば、光線の重なり具合が微小に変動するだけで色の違いを発生させ、物体の1ミリ以下の変動でも目に見える大きな変動として観測することができる。2台の 프로젝터からなるライトフィールド 프로젝터から投光した光が、正しい対象物上で重なり合うと白色になり、少しでもずれや歪みがある対象物だと別の色が発生する仕組みを工場での製品検査に取り入れれば、素人の目であっても異常を容易に検知できる仕組みとして活用できそうだ。

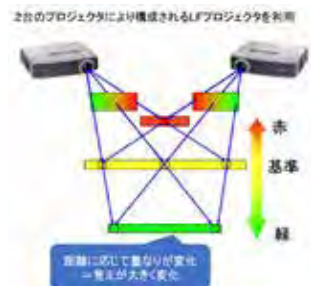


図 1

◇マルチバンド 프로젝터를用いた多重画像投影

多重画像投影とは、単一の動画像を提示するだけで複数の観測者それぞれに対して異なる動画像を観測させる技術。複数の 프로젝터で構成されるマルチバンド 프로젝ター (写真1参照)を用いることで、波長の違いなど多くの情報を投影光に埋め込むことができ、高精度な多重画像投影が可能になる。

光の波長に対する感じ方を表す分光感度特性や、光に対する時間応答特性といった視覚特性には個人差がある。こうした視覚特性の違いを利用することで、何のデバイスも利用することなく個人ごとに全く異なる映像を観測させたり、暗号化された情報を提示したりすることができる。1台の画面で複数の人が同時に異なる番組を視聴できる次世代テレビや、視力の悪い人でも眼鏡が不要になるディスプレイなどへの応用が期待される。



写真 1

お問い合わせ先 国立大学法人名古屋工業大学 産学官金連携機構

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町字木市29番 E-mail: c-socc@adm.nitech.ac.jp
URL: http://tic.web.nitech.ac.jp

数日先の環境情報を予測する

知的IoT技術で農林水産業支援

研究者：名古屋工業大学大学院 工学研究科 情報工学専攻 大塚 孝信 准教授

遠隔地に設置した各種センサのデータを収集し、ユーザーに情報提供するシステムを開発している大塚孝信准教授。真珠養殖のための海水温予測システムや、中小河川水位の予測システムなど、実際の運用を想定した機器の設計・開発からデータ処理・予測方法までを一貫して研究している。

収集したデータを継続的に観察・解析、さらには、画像データ等を統合して学習させることによって予測アルゴリズムの精度向上を図っている。またハードウェアの耐候性・省電力設計などを継続して改良することで、最新の研究成果を現場に応用し続けている。

◇海水温予測システムの真珠養殖への応用

生簀や筏など海で養殖される魚介類は、赤潮や海水温の変動が発生した場合、全滅に追い込まれるケースも珍しくない。養殖真珠の母貝となるアコヤ貝の適正水温は、冬季10℃以上夏季は25℃以下とされ、冬季は暖かい水域で越冬し、夏季の水温の急上昇が予想される場合には養殖筏そのものを水温の低い漁場に移動させている。養殖真珠の代表的な産地である三重県英虞湾のようなリアス式地形では、地形条件など周辺状況の違いによって、各地域の海水温変化が大きい。実際に養殖場として利用しているポイントの100～500m四方ぐらいの計測範囲で水温を収集・予測する必要がある。またアコヤ貝は、ネットや籠に入れて筏から海中に吊るして養殖するため、水深2～10メートル間の水温のデータ収集・予測が必要になる。

海水温の予測は養殖従事者の経験と勘が頼りだが、ベテラン従事者の高齢化や引退などによって予測技術の伝承が難しくなっているため、ベテランの経験と勘に代わってIoTやAI技術を活用し、気象データと組み合わせて4水深(0.5m、2m、5m、8m)の水温を5日後まで予測可能なシステムを開発した。各地点の水深ごとの海水温を予測するアルゴリズムは、三重県真珠養殖協議会が「英虞湾モニタリングシステム」によって収集した過去10年分(2007～17年)のデータと、英虞湾近傍の気象データを元に、様々な機械学習アルゴリズムを利用して、予測モデルを構築している。

湾の構造や潮目など自然環境を理解した上で、センサの設置場所や構成や学習パラメータを選定するなどして、予測との誤差の低減を図っている。2017年から独自に開発した水温観測装置に刷新し、同一の筏上に複合気象計を追加設置した(写真1参照)。今後は、1カ月単位の長期予測の精度向上や、海水温だけでなく、植物プランクトンの指標となる「クロロフィルa」や塩分濃度の予測を行うなど、ユーザーが必要とする少し先の未来の地球環境を予測し、持続可能な海産養殖のサポートを目指す。

写真1. 真珠養殖筏の上に設置した複合気象計

◇農業や防災・減災分野など幅広い分野への適応

従来、センサとの通信は専用設計だったが、電圧やインターフェースの異なる多様なセンサを接続可能な「WSN(ワイヤレスセンサネットワーク)プラットフォーム」を世界に先駆けて開発し、実装を行っている。このプラットフォームの活用で、様々なフィールドでの情報収集が容易になるほか、異なる用途のセンサを接続可能とすることで、複数の分野へのデータ提供を行うことが可能になる。この汎用環境情報収集システム1つで、土壌の水分予測や用水路の管理など農業分野、土砂崩れ予測や河川の氾濫予測など防災・減災分野への適応が期待される。

実際に運用する現場の問題点を抽出し、最適な機器構成や予測アルゴリズムを構築するとともに、自然に寄り添い、被害を低減できる情報提供を目指す。

お問い合わせ先 国立大学法人名古屋工業大学 産学官金連携機構

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町字木市

E-mail: c-socc@adm.nitech.ac.jp

URL: <http://tic.web.nitech.ac.jp>

新聞記事コーナー

中日新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2018/10/10	朝	14	弓道部	—	sports 愛知弓道 東海学生リーグ(7日)
2018/10/12	なごや 東版朝	22	増田理子	社会工学専攻	マメナシとアイナシ 14日に自生地観察会 尾張旭・城山公園
2018/10/15	朝	15	名工大OB	—	アラカルト ごきそ会展
2018/10/17	岐阜版 朝	17	アメフト部	—	アメリカンフットボール 東海学生リーグ(14日・中京大)
2018/10/19	朝	17	梶浦	在学生	sports愛知 名古屋レガッタ
2018/10/20	朝	8	名古屋工業大学	—	スキル生かし無償で事業支援 「プロボノ」いいね 社会人 「異業種体験」「人脈広がる」
2018/10/21	朝	18	名古屋工業大学	—	英語民間試験 東大「出願要件の一つ」と発表 「他大学は」焦る受験生 愛教大、名工大は加点方式
2018/10/23	岐阜版 朝	19	アメフト部	—	アメリカンフットボール 東海学生リーグ(21日・名院大)
2018/10/23	朝	19	森河由紀弘	社会工学専攻	破碎瓦で土の圧力低減 県陶器瓦工業組合 実証実験、「裏込材」に期待
2018/10/24	朝	14	熊谷智徳	名誉教授	叙位叙勲＝東京
2018/10/26	朝	22	伊藤孝紀	建築・デザイン工学科	栄 彩りの未来 感性くすぐる創造を 名古屋工業大学 伊藤孝紀准教授
2018/10/26	朝	2	徳田研究室	—	一緒に食べる幸せ演出 ITで共食
2018/10/27	朝	22	坂元律矛	在学生	米で先端技術の国際見本市 県 派遣学生チーム決定
2018/10/28	朝	9	ジョセフエサティエ	基礎教育類	毒ガス製造と差別 来月10日写真家講演 東別院ホール
2018/10/31	朝	15	名古屋工業大学	—	ベトナム人の犯罪防止へ協力 県内の親善協会と在留団体が覚書
2018/11/1	朝	16	名古屋工業大学	—	試作や量産化、企業群が支援 あいちスタートアップ戦略
2018/11/2	朝	20	名古屋工業大学	—	AIが“司会役” ネットに意見を 市の総合計画中間案
2018/11/3	朝	6	中林功一	名誉教授	秋の叙勲
2018/11/9	朝	7	弓道部	—	弓道 東海学生リーグ最終日(10月28日・愛大ほか)
2018/11/11	朝	32	名古屋工業大学	—	大学入学共通テストのプレテスト 記述式に戸惑い 参加生徒「難しかった」
2018/11/13	中日 プラス	／	磯部雅晴	物理工学専攻	米科学誌のマイルストーン論文に選出 名工大准教授ら日米仏共同研究
2018/11/16	朝	28	名古屋工業大学	—	先端技術集積 米オースティンと連携 愛知を「起業家の街に」
2018/11/17	朝	9	伊藤孝紀	建築・デザイン工学科	街が変わる 動きだす栄 車道にテラス席 乾杯! 栄・プリンセス大通 来年1月まで「実験」
2018/11/18	朝	11	学生	—	愛知県広告 ショシゴト理科系女子編
2018/11/18	東濃版 朝	20	名古屋工業大学	—	起伏多く「激戦」予想 さよう東濃駅伝 土岐でコース変更
2018/11/21	朝	31	柴田哲男	生命・応用化学専攻	サリドマイド奇形化回避 名工大が実験 医薬品開発に期待
2018/11/22	朝	1	伊藤孝紀	建築・デザイン工学科	名駅再開発で「ナナちゃん」どこへ 22年度以降は白紙
2018/11/23	朝	32	名古屋工業大学	—	名古屋大 必須とせず 20年度入試英語民間試験
2018/11/24	WEB	／	鉄道研究会	—	模型運転や記念撮影に列 岐阜で「鉄道博物館」始まる
2018/11/25	朝	10	名古屋工業大学	—	仮想通貨取引技術仕組み学んで討論 名工大で学生ら
2018/11/29	朝	9	名古屋工業大学	—	あいちワーク・ライフ・バランス 推進運動2018 取り組み紹介 国立大学法人名古屋工業大学
2018/12/1	夕	5	名古屋工業大学	—	愛知学長懇話会 サステナビリティ・リレーションシンポジウム2018年度開催
2018/12/4	朝	4	鵜飼裕之 内匠逸 春日敏宏	学長 理事 生命応用化学専攻	身近な生活 助ける開発 第32回中日産業技術賞
2018/12/6	朝	17	陸上部	—	社告 東海学生駅伝

中部経済新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2018/10/23	朝	17	王建青	電気・機械工学専攻	「研究現場発」人体内外間の高品質画像伝送や装着ロボットの高速制御が可能に
2018/11/20	朝	15	本林健太	物理工学専攻	「研究現場発」海面現象の理解から機能を創出 「イオン液体」の界面分光解析

平成30年度 北海道支部総会報告

平成30年度北海道支部総会は、2018年11月10日(土)に札幌で10名が参加して開催されました。名古屋工業会本部から森 秀樹副理事長(D52)(名工大教授)が出席されました。総会では、森副理事長から資料に基づいて大学および工業会の現況について紹介されました。

今年度入学者の約80%は東海3県の出身者であること、約16%が女子学生であることでした(ちなみに昭和37年入学の筆者のときは、入学者の約70%が東海3県以外の出身者、女子学生は全学で2人でした)。「大人たちが見る大学ランキング」によると、研究力や教育力で母校がきわめて高く評価されていることが紹介されました。またクラブ活動で活躍している学生さんとして、ボート部女子足立知里さんが第45回全日本大学選手権大会女子シングルスカルで8位入賞、杵川日向雅さんが平成30年度全日本珠算選手権大会(フラッシュ暗算競技)で優勝(ギネス記録申請中)、将棋部の竹川 和さんが第21回学生将棋選手権個人の部で優勝(過去に藤井聡太七段と対戦経験あり)が紹介されました。さらに名古屋工業会から新入生2人に給付型奨学金が授与されたことなどが紹介されました。母校のますますの発展に出席者一同嬉しくなりました。

総会終了後は場所を札幌の繁華街(すすきの)に移し、さらに親睦を深めました。

当日出席者の近況は次の通りです(敬称略)。

宮入 紀行(F40)： 卒業後9年間マツダに勤務された後、家業を継ぐため、北海道岩見沢市に戻られました。健康上の理由で医師から飲酒を止められていますが、この会では久しぶりにお酒をたしなまれました。

高田 忠彦(Y41)： 徳島県のご出身で、卒業後就職で北海道にいられてから50年が経ちました。現在は、会社を立ち上げ、生涯現役でがんばっております。

三田村好矩(F41)： 今年、断りきれず町内会長を引き受けました。盆踊り、ラジオ体操、ふれあいレクリエーション、敬老の日のお祝、町内

清掃、防犯パトロール、防災訓練と多彩な行事に振り回されています。町内の少子化、高齢化を実感しています。

山平 英夫(C43)： 今年は大学卒業50周年に当たり、浜名湖館山寺温泉で開かれたクラス会に出席されました。クラス会ではお互いの健康問題が話題になりました。

及川 善史(M47)： 現在建設機械レンタルの企業に週2回勤務しておられます。ゴルフは今年8回プレイし、80台のスコアをだされました。2年に1度開かれているクラス会が今年は横浜で開かれ、17人が出席しました。3人のお子様は仙台、京都、土岐に住んでおられます。

田上 利明(C47)： 現在測量会社の会長をしておられます。健康増進を目的にゴルフを楽しんでおられます。今年はすでに134回プレイされました(雪で半年プレイできない北海道では、驚異的な回数です)。

佐川 正人(C53)： 大学時代はワングル部に所属されておられ、現在も奥様と一緒に登山を楽しんでおられます。また自転車ツーリングも楽しんでおられます。現在ISO認証に関する会社に勤務しておられます。

浅野 一郎(C54)： 岐阜県のご出身で、札幌に転勤されて6年目になりました。北海道勤務も後2年程度になりそうで、まだ行っていない北海道各地の観光を希望しておられます。

伊東 博之(ZW93)： 愛知県出身で北海道にいられて3年になりました。鉄鋼材料などを販売する企業(阪和興業)の北海道支店長をしておられます。今回の総会の最年少出席者で、当支部のホープです。

記：三田村好矩



平成30年度 東京支部総会レポート

平成30年11月10日(土)、東京中央区日本橋茅場町の鉄鋼会館に於いて東京支部総会が開催され、124名の卒業生が参加した。大学から鶴飼裕之学長(F52)、生命・応用化学専攻の山下啓司教授(W56)、社会工学専攻の仁科健名誉教授(B50)に、また、名古屋工業会から加川純一理事長(K49)、内藤克己常務理事(A43)に、ご来賓としてご列席いただいた。特別講演会の講師として、電気・機械工学専攻の佐野明人教授にご講演をいただいた。

支部総会は、「総会」、「特別講演会」、「懇親会」の3部構成のプログラムで進行した。

第1部の「総会」では、最初に榎尾恒次東京支部長(C48)がご挨拶され、続いてご来賓の鶴飼学長と加川理事長よりご祝辞をいただいた。



鶴飼学長

鶴飼学長からは、「工学研究のフロンティア」として先駆的な工学教育を実践すること、研究投資の観点で金融機関を含む産学官金連携を目指すこと、多様な人材を活用するダイバーシティ環境を推進することのご説明とともに、名工大の現況をご紹介いただいた。



加川理事長

加川理事長からは、名工会から、大学や学生への支援、卒業生による講演、鶴桜会(OG会)への支援、名工会財政の見直し等の工業会の最近の活動トピックスについてご紹介いただいた。最後に榎尾支部長から、東京支部の会務報告、会計報告及び会計監査報告が行なわれた。

第2部の「特別講演会」は、「ACSIVEで歩きも心もアシスト」と題して佐野明人教授にご講

演いただいた。ACSIVE(アクシブ)は、佐野教授が研究されている受動歩行理論に基づいて企業と共同開発された無動力歩行支援機である。ご講演では、当該歩行支援機が、電気やモーターなどを使わず、振り子の動きとバネの動きによって脚の振り出しをアシストするため、軽やかな歩行支援を実現すること、「ACSIVE」は、名工大が保有する登録商標であること(注1)などをご説明された。さらに、重力だけを利用して歩行継続するロボットの紹介を通じて、歩行を単なる物理現象として捉えられること、揺れるままに歩行させることなど、ご説明いただき、興味深いご講演であった。無動力歩行アシスト機能により、福祉分野に限らず、健康分野や産業分野に活用される事例の紹介があり、「歩くは文化なり」の考えにより健康及び福祉に広く貢献することが実感された。また、当該歩行支援機の試着が懇親会において行われた。



佐野教授

(注1)商標登録5709063号

第3部は、懇親会場に移動し、最初に全員を2つのグループに分けて集合写真を撮影した。「懇親会」は、松浦明人副支部長(M47)の乾杯の音頭で始まり、ご来賓、旧友、同期、先輩、後輩との賑やかな歓談の場となった。現在の名工大の構内や学生の様子を紹介する動画が映写され、西遥輝氏(C平27)によるギター演奏や滝義宏氏(D39)によるハーモニカ演奏が披露された後、90歳台の大先輩(3名)からご挨拶をいただいた。続いてメイちゃんによる校歌斉唱のお手本を聴いた後、ハーモニカの伴奏で参加者全員が校歌を斉唱した。さらに平成15年以降の卒業生(5名)の音頭により万歳を三唱し、来年度の総会での再会を約束して今年度総会のお開きとなった。

記：北村明弘(K53)



平成30年度 九州支部例会の開催報告

平成30年度の支部例会を10月20日(土)、ステーションホテル小倉にて開催。

今年は、1講演会、2総会、3懇親会の3部構成。講演会では eスター(株)赤澤社長より、廃熱利用で脚光を浴びつつあるスターリングエンジンを紹介頂いた。総会では支部例会出席者50名を目指した“Challenge 50”達成に向けての今後の活動の基本方針を説明。

その後、参加者一同記念撮影の後、いよいよ懇親会へ。今年は、名古屋工業会本部より加川理事長と内藤常務理事のお二人をお迎えし、総勢31名。両ご来賓より工業会、大学の近況につきお話を頂いた。学生の暗算世界一、学生将棋日本一など頼もしい限り。

イベント幹事より相互の懇親の機会を増やすべく、見学会・同好会活動についての企画の紹介もあり、来年度の活動参加を誓い合った。



写真1. 講演会



写真2. 総会



写真3. 懇親会



記念撮影

平成30年度 兵庫支部定期総会報告

平成30年度兵庫支部総会を、11月17日に三宮東急REIホテルにて開催し、名古屋工業会・加川純一理事長、大阪支部・岡崎格郎支部長、川越英二副支部長にお越し頂きました。

第一部は、神鋼環境ソリューション・田路明宏部長(D05)をお招きして、「ベトナムの水環境と神鋼環境ソリューションの取り組み」と題し、ベトナムの水環境についてご講演頂きました。ベトナム赴任時の生活についてご紹介があり、非常に貴重な興味深い講演となりました。

第二部は、ご来賓の方々から祝辞を頂きました。その後、兵庫支部・役員紹介、交代人事案、会計報告、会計監査報告を受け、全会一致で承認されました。

第一部、第二部を通して、高瀬陽太郎支部長の挨拶で締めくくり、続いて加藤恵之幹事(K44)ご発声による乾杯で懇親会に入りました。恒例のくじ引きでは、来年度春季見学会のカワサキワールド、名工大グッズ等の景品を準備し、大いに盛り上がりました。最後に学歌を全員で合唱し、青野信尹事務局長(C46)の音頭のもと万歳三唱、植田康之副支部長の閉会の辞により来年度の再会を期して終了しました。

記：兵庫支部当番幹事 一宮 誠(M59)



平成30年度 名古屋支部見学研修会に参加して

去る平成30年10月20日(土)名古屋支部恒例の見学研修会に参加しました。旅程は、琵琶湖近くの野洲市にある「銅鐸博物館」を見学後、おごと温泉「びわこ緑水亭」にて昼食をとり、その後、お土産どころの「ラコリーナ近江八幡」に立ち寄り、琵琶湖八景のひとつ「安土・八幡の水郷」を船で巡るというものでした。去年は雨模様でしたが、今年は快晴です。8時に栄のテレビ塔北側に集合し、支部会員はじめご家族の皆様、総勢77名が、バス2台に乗り込み出発しました。(写真1) CE会と光鯨会の参加者が、毎回多く参加して頂けてるようです。



写真1. 参加者の皆さん
(びわこ緑水亭前、上：1号車、下：2号車)

いつものように、お菓子詰め合わせと、お茶、ビールが配られ朝からいい気分です。名鉄観光のバスガイドさんは自分でも言ってましたが、柳原加奈子似のぽっちゃり系の可愛い娘で、バスの中でいろいろなうんちく問題を出していただきました。たとえば、伊吹山の世界一の記録は何か？積雪量が一日で11mを観測したそうです。バスガイドさんがいる旅は、年に一回この研修会くらいしか経験できないのでいつも楽しみにしています。ビールを飲んでいるので、皆トイレが近く、予定どおり養老SAでトイレ休憩し、名神高速道路の竜王ICを降り、10時30分に野洲市にある銅鐸博物館に到着しました。

銅鐸は、今から約2千年前、弥生時代に造られた青銅製の「まつりのカネ」です。野洲市小篠原の大岩山から、明治14年に14個、昭和37年の10個、計24個の銅鐸が出土し島根に次いで多く出土しており、この中には日本最大の銅鐸があったそうです。出土したときは青緑色してましたが、製造した当時は、きれいな銅色をしておりそのレプリカが置いてありました。(写真2) また、弥生時代の人々の生活や文化を実物大で体験できる公園もあり竪穴住居や高床倉庫などが復元されてます。個人ではなかなか来ないスポットですが、結構興味深く見る事が出来ました。



写真2. 銅鐸博物館

琵琶湖大橋を通過して、琵琶湖の西側のおごと温泉「びわこ緑水亭」で昼食をとりました。支部長の大鹿さんからのご挨拶と乾杯。(写真3) 生命・応用化学科学科の橋本先生から大学の近況報告がありました。(写真4) 現在、名工大は、



写真3. 昼食会場 大鹿支部長 乾杯

女子の比率が20%近く、就職率も99%以上、学生もあらゆる分野で活躍中とのことでした。食事は、お刺身や近江牛のしゃぶしゃぶなど豪華で大満足、お酒も飲み放題でした。食事だけで会費の元が取れてしまいました。また、テラスからの琵琶湖の眺めも良く温泉もこぎれいでした。



写真4. 昼食会場 橋本先生 大学の近況報告

14:00に温泉を出発し、琵琶湖大橋を戻り「ラコリーナ近江八幡」に到着。もともと和菓子の「たねや」グループが“自然と人がつながる場所”として世界に発信していく事を目標に様々な事業を展開してるそうで一般公開されているのは、屋根一面が芝に覆われたメインショップでジブリの世界観を感じました。(写真5)ショップには、お食事できるお店や「たねや」の全製品が販売されており、人気の焼きたてのバームクーヘンや生どら焼きは、長蛇の列ができてました。バスガイドさんおすすめの生栗どら焼きに30分並びゲットし何とか出発時間に間に合いましたが、家族へのお土産は買えませんでした。



写真5. ラコリーナ近江八幡

生どら焼きは、生だけあって柔らかく生クリームたっぷりですが甘すぎず、バスの中で食べました。むちゃくちゃ美味しかったです。

その後、バスで移動して近江八幡水郷巡りに到着。「日本一 水郷巡り船のりば」との看板。琵琶湖八景のひとつ「安土・八幡の水郷」密生したヨシの間に細い水路が網の目のように張り巡らされており水郷巡りは、その昔、織田信長が宮中の船遊びをまねて楽しんだと言われてるそうです。我々はモーター船に14名ほど乗り込みました。(写真6)途中、手漕ぎ船とすれ違い風情を感じました。約1時間弱の水郷巡りを堪能しました。近江牛のすき焼きを食べながら巡るコースもあるようですがぜいたくは言えません。



写真6. 安土・八幡水郷めぐり

16:30頃、水郷を出発し帰路につきました。少し高速の渋滞がありましたが、19:00過ぎには栄に到着したっぶり一日の見学研修会を満喫いたしました。なかなか経験できないスポットを見学させていただけるこの名古屋工業会名古屋支部の見学研修会に是非来年も参加したいと思います。

記：小澤 謙二(F59)



大阪支部 平成30年度秋季見学会

関西電力大飯原子力発電所見学会報告(2018年10月20日)

2018年度秋の見学会は、関西電力大飯原子力発電所の見学となりました。大阪支部では過去2009年にも、この発電所を見学しました。今回の参加者は18名で、その内の5名は2度目の参加です。

出発9時の大阪駅前には、結構強い雨が降っていましたが、バスは高速道路経由で福井県へ。バスの車内では、関西電力の製作による原子力発電所の安全関係等のDVDを視聴しました。今回の案内役として、関西電力から2名の方に添乗いただきました。おかげさまで福井県に入ると晴天となり、高浜町の城山荘にて昼食休憩を取りました。

次に、大飯原子力発電所のビジターハウスの見学です。このハウスは道の駅に接しており、原子力発電所の内容説明を行う施設です。ここで、各自の身分証明書の確認を行いました。参加者には、顔写真付き身分証明書の持参が要求されており、今回運転免許証をお持ちの方が、ほとんどでした。これは、関連法令が厳密化されてのルールとのことで、9年前には個別での身分証明書の確認はありませんでした。

各種の映像による説明を受けてから、いよいよ本番の大飯原子力発電所に向かいます、大島半島への連絡橋を渡り15分ほど走り、ようやく大飯原子力発電所に到着しました。この原発には、加圧小型軽水炉(PWR)が4基あります。

1号機、2号機は、今年3月に廃炉が決定しています。3号機、4号機は、各々最高出力の118万kwで発電しており、関西地方へ送電しています。

見学は発電所専用のバスに乗り換えることになります。その前に、見学棟でVRゴーグルを受け取りました。次に、ひとりずつガードマンに名前を呼ばれて、顔写真を確認された後にバスに乗り込みました。海外へ行く際の、パスポートチェックと同じことでしょうか。

見学バスにて、所定コースを回りました。例えば、発電機の建屋に来た時に、内部は見えないので、VRゴーグルにて内部の様子を見ることができました。ただし静止画像の対応でした。施設内では、随所で工事が行われており、災害時の安全性向上への対応だと思われました。

大飯原子力発電所での1時間の見学の後、京都縦貫道の道の駅である「味夢の里」で休憩を取り、大阪駅に18時に到着しました。

今回の参加者の皆様より、せっかくの機会なので原子力発電について、関西電力と意見交換をしたかったとのご意見がありましたが、今回は先方の対応も難しく、またの機会を設定したいと考えます。今後とも見学会への参加いただくと共に、見学先のご希望があれば何なりと担当者までご連絡をお願いいたします。

記：西川(G50)



岐阜支部 平成30年度研修会報告書

岐阜支部は、今年度支部活動の一環として、標記「養命酒駒ヶ根工場の見学と中山道・奈良井宿散策」を10月6日(土)に実施しましたので、ここに報告いたします。

当日は、午前7時15分にJR岐阜駅前を出発しJR多治見駅前を経由して一路駒ヶ根市に向かいました。参加者は岐阜支部会員とその家族の総員22名で実施いたしました。

バスの中にて、養命酒製造株式会社の概要説明や、養命酒に含まれる14種類の生薬の種類について事前知識を入れて工場見学に備えました。中央アルプス駒ヶ岳の麓に位置する緑豊かな工場にて1時間、健康の薬種「養命酒」の配合、生薬の効能などの説明を受けてから工場見学をしました。

その後、近くの旅館「やまなか」にて昼食懇親会を開き懇親を深め、次の目的地である塩尻市の中山道・奈良井宿に向かいました。奈良井宿では、江戸時代に塗櫓問屋として栄えた中村屋の建物ほか町家を見学しました。町家のつくりは、猿頭をあしらった鎧庇、二階正面の格子と袖壁、一階より二階が少し前に出た「出梁造り」などの特徴ある建物が多く残されており、江戸時代末期にスリップして町並みを散策してきました。

来年度の研修旅行にも多くの会員に参加いただけるようにお願いし散会しました。

記：関尾 光正(D41)



養命酒駒ヶ根工場にて

名工会東京支部第237回ゴルフ大会報告

名工会東京支部第237回ゴルフ大会は11月9日、大厚木カントリークラブ桜コースにて開催されました。前日までの天気予報では曇りとなっていたにもかかわらず、当日の朝、コースに参加者が集まる頃はかなり激しい雨になっていて、決行するかどうか迷っていましたが、その後到着した顧問の藤田さんが「やろう、やろう」と言われ、スタートしました。スタートする頃には、幸い雨も止み、午前中は時に薄日も差す天気に恵まれましたが、午後のインスタートの頃には雨が落ちだし、後半9ホールは傘を差してのプレーになってしまいました。とはいえ、85歳の黒田さん以下、参加者12名全員が無事18ホールを完走でき、めでたしめでたしということになりました。

結果は、優勝 E48寒川 修平さん (Net78, Hdcp12)、準優勝 E33 藤田正浩さん (Net80, Hdcp12)、第3位 M42 河野正武さん (Net81, Hdcp13)でした。

プレー終了後、クラブハウス内のレストランにて、各賞の表彰式と懇親会を行い入賞の挨拶を頂くと共に、ゴルフ談義、健康談議に花を咲かせました。

次回は来年3月29日、桜のきれいな本厚木CCにて開催の予定です。大勢の皆様の参加をお願いいたします。

なお、当会の活動内容問い合わせ及び入会希望の方はC44川島さん(k_tai@amethyst.broba.cc)までご連絡下さい。

記：実行委員 野澤滋為(M36)

河野正武(M42)



E32クラス会報告(平成30年10月2日、3日開催)

クラス会と出席者 電気工学科を昭和32年に卒業し、すでに61年経過した。クラス会は当初は3年に1度程度の開催であったが、20年ほど前から毎年開いている。関西、中部、関東の各地区の在住者が世話役になって、それぞれの地域で交代に開催している。クラス全員40名のうち、すでに半数近くが鬼籍に入り、クラス会に出席する人数は、最近では10名足らずになり少々寂しい思いをしている。毎年の開催は、当初はやや負担に感じていたが、“来年も参加できるように健康に気をつけよう”との合言葉に励まされて健康維持に努力する効果は大いにある。

母校を訪問 中部地区での開催時には、まれにはあるが母校を訪問している。前回は13年前に訪問し、現学長の鶴飼裕之先生(当時助教授)にお世話頂いた。今回は、大学本部から紹介を受けた卒業生連携室の皆様大変お世話になった。卒業生連携室は、第二次世界大戦以前の学内唯一の建物である校友会館(大学敷地の南西の角)の2階にあり、その隣には名工大ゆかりの品々の展示室がある。

2日の昼食を校友会館1階のレストラン カフェ・サラで摂ったが、1000円で結構な内容と雰囲気であった。ついで、校内で最も見晴らしの良い6号館11階に移動し、内匠 逸 理事・副学長の講演「名工大の現状と将来への展望」を聞いた。産・官・学に銀行まで含めての新しい組織(産学官金連携機構)作り、学生・留学生に対する新たな取り組み(Nitech Cosmo Village新設)、現時点における成果(女子学生比率増への



我々の頃の初代学長 清水勤二先生の胸像前

取組等)、並びに将来への展望などを熱く語られ、大変頼もしく拝聴した。



校友会館の前にて

卒業生連携室の皆さん総出の御協力で、一本松古墳、清水勤二初代学長の胸像、正面玄関の訪問者への口頭応対システム(メイ&タクミ)、などなどを見て回った。副学長さんの頼もしいお話と、とても行き届いた連携室の対応に感謝し、後日、大学への募金の振込用紙に些少を記入した。

宿でのクラス会 母校での充実した時間のあと、知多半島の「かんぽの宿 知多美浜」へ移動し、夕食を楽しんだ。各自の近況報告は、以前は宴会終了までに終わらないことが多かったが、最近は参加者が少なくなり、ほぼ時間通りに終わるのはやや寂しいことでもある。幹事の部屋での2次会も以前は持ち込みのブランドーやウイスキーなどは概ね空瓶になることが多かったが、今年はアルコールやつまみは随分残ってしまった。しかし、それだけに話には花が咲いた。宿は良かった。

クラスメートの俳句をよくする一人に一句をお願いした。

「満天の星海に入る知多の秋」 大橋 徹

(クラス会の宿にて)

翌日は朝食後、毎回のようゴルフ組(と言っても3名)と見学組に別れてそれぞれを楽しんだ。

(記：森 千鶴夫)

第26回ごきそ会展(名古屋工業大学OB美術展)2018開催

平成最後の秋を迎え、今年も恒例の「ごきそ会展」を名古屋の地下鉄伏見駅近くの電気文化会館東ギャラリーで10月23日～10月28日にわたり開催いたしました。美術を愛する卒業生19名と特別参加の現役大学生1名が73点の作品を展示し、多数の方にご鑑賞をいただき無事に終了することができました。ご来場いただきました皆様様に心から御礼申し上げます。

今年は「ごきそ会展」に新風を吹き込もうと大学の美術部に交流を持ち掛けたところ美術部部長の橋本拓実君(建築デザイン工学科4年)が出演してくれました。卒業後に「ごきそ会展」に入会してくれることを期待しています。

さて、今年の展示作品は全体的に質が高いと評価を受けましたが、その中でも清水昭夫氏(A26)のアクリルスプレイ画の斬新さ、清水昭氏(A34)の薬師寺や名古屋城の夜景を描いた日本画、更には脇田芳明氏(A35)の明治、大正、昭和初期に建てられた東京に現存する有名建物を描いた水彩画などが鑑賞者の注目を集めていました。

2019年も同じ場所で同じ時期に開催予定ですので是非ともお越しください。会員の高齢化が進んでいます。若い世代の入会を期待していますので絵を描いている方の情報がありましたら「ごきそ会展」事務局までご連絡ください。

記：平川 史朗(A38)

今回の出展者名

清水 昭夫(A26)	富田憲次郎(A29)
栢本 良三(A31)	早川 茂次(A33)
本田 暎幸(D33)	清水 昭(A34)
山田 銃一(K34)	伊藤 禎治(A35)
栃尾 宗昭(A35)	脇田 芳明(A35)
福田 一豊(A36)	藤野 康彦(A36)
平川 史朗(A38)	高橋 秀郎(M41)
村上 健一(M41)	吉田 昭博(M41)
小田 義彦(A50)	野田 敏生(M⑨)
高山 晃(M⑩)	橋本 拓実(大学4)

○は平成

事務局

幹 事 平川 史朗

〒454-0971

名古屋市中川区富田町千音寺土坪3755

TEL / FAX 052-432-3975

E:mail hirakawa46@cap.ocn.ne.jp

副幹事 高橋 秀郎

〒470-0155

愛知県愛知郡東郷町白鳥3-18-8

TEL / FAX 0561-38-1431

E:mail tymxf330@ybb.ne.jp

顧 問 福田 一豊





謹賀新年

平成31年元旦

名古屋支部

〔平成29・30年度主担当単科会・計測会〕

支部長	大鹿秀正	F47
幹事長	大鑄史男	F49
庶務幹事	米谷昭彦	F60
同	木村高志	F62
会計幹事	内藤隆	F①

〔単科会 代表連絡幹事〕

C E 会	遠藤浩二	C61
光 鱈 会	伊佐治 武	A39
巴 会	大西 一	M49
電 影 会	三宅正人	E60
双 友 会	伊藤哲夫	W45
緑 会	村瀬由明	D53
名 窯 会	曾根茂実	Y62
名 晶 会	平野春好	K50
計 測 会	米谷昭彦	F60
経 友 会	仁科 健	B50
情 友 会	石橋 豊	J56

事務局 〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4
名古屋工業会内 ☎(052)731-0780

東京支部

支部長／副理事長	C48	榎尾 恒次
副支部長／代議員	M47	松浦 明人
副支部長／代議員	D45	鈴木 満雄
代表常任幹事／代議員	K53	北村 明弘
相談役／顧問	D33	横田 章宏
相談役／顧問	E36	小田征一郎
相談役／参与	D41	阿部 完二
相談役／参与	Es42	平手 孝俊
顧問	W38	倉島 和治
顧問	D51	松居 敏昭
監事	D38	三山 雅
監事	Y40	日沖 昭

常任幹事／代議員

E44	井上 憲二
C55	松田 和繁
A62	長谷川久巳
F52	小川 一郎

常任幹事

C53	瀬尾 卓也
C56	名倉 健二
D54	刑部 道博
D57	大久保智明
M45	小野 尚純
M55	戸澤 宏一
Es43	森本 晃一
E⑬	三浦 太朗
A58	吉井 正行
K53	北村 明弘(兼)
Y42	清 建太郎
W43	印藤 嶠
B46	飯沼 義昭

幹事

C44	川島 泰美
C⑭	佐藤 良亮
D35	岡本 利郎
D44	馬場 順一
D①	木下 清彦
E36	福間 洋二
M49	一瀬 賢陽
A55	池松 新一
K61	松永 政之
F45	
B43	

北海道支部（北鱈会）

支部長 三田村 好矩（F41）

代議員 浅井 信和（D45）

静岡支部

支部長	石塚基一郎（C54）
代議員	山之上 誠（C49）
代議員	榊原 学（S48）
事務局長	藤井義磨郎（S49）

静岡支部役員一同

東北支部

支部長 齋藤 文伸（A51）

事務局 〒982-0821 仙台市太白区松が丘3-22
☎&FAX 022-228-0685

三河支部

支部長 中島 和彦（Y58）

幹事 北 朋弘（FB⑥）

大 阪 支 部

支部長 A46 岡崎 格郎
副支部長 * E47 川越 英二
副支部長 * G50 西川 嘉一

総務委員長 * C59 堀口 大輔
事業委員長 * E47 川越 英二 同副委員長 * G50 西川 嘉一
会員増強委員長 * G50 西川 嘉一 同副委員長 B50 出口 貴通
若手・女性部委員長 C55 小西日出幸 同副委員長 M48 筒井 真作
地方部委員長 * E45 伊藤 俊明 同副委員長 B50 出口 貴通
技術士部会 M46 松永 純二 同副委員長 D41 末利 鏡意
財務委員長 A50 井上 修一 同副委員長 F55 坂尾 健司
単科会連合委員会委員長 * B50 西岡 裕 同副委員長 M58 筒井 真作
監 事 W48 奥村 茂樹
単科会支部長 C47 西川 芳久 単科会支部長 Y44 川島 謙
単科会支部長 A56 穂山 和生 単科会支部長 K48 加藤 修
単科会支部長 M45 掛田 健二 単科会支部長 F55 坂尾 健司
単科会支部長 * E47 川越 英二 単科会支部長 B50 廣島 清則
単科会支部長 W40 缶 文雄 (以下役員16名は空白)
単科会支部長 * G50 西川 嘉一 * は本部代議員

地方部会幹事

和歌山県 C57 東 照久 C53 向井直樹 SC⑦ 井原誉文
奈良県 K47 横山 誠 * G50 西川嘉一 C52 福井広行
滋賀県 A46 福永忠昭 * M45 伊藤俊明
京都府 A56 宮本和則 M58 筒井真作

【本 部】

本部相談役 C44 木越 正司
副理事長 A46 岡崎 格郎
本部参与 K40 河辺 彰

兵 庫 支 部

支部長 高 瀬 陽太郎 C55 元・兵庫県庁
副支部長 西 川 芳 久 C47 元・神戸製鋼所
植 田 康 之 M⑩ 川崎重工業
事務局長 青 野 信 尹 C46 元・神戸製鋼所
監 査 役 上 村 芳 大 M55 川崎重工業
顧 問 楠 田 修 三 A50 元・兵庫県庁
幹 事 田 村 健太郎 C②① 兵庫県庁
羽 倉 昭 二 C54 神戸市役所
一 宮 誠 M61 神戸製鋼所
小 倉 正 裕 ZY③ 神鋼環境ソリューション
武 藤 崇 史 EJ② 三菱電機
弘 津 健 二 J 63 三菱重工業
加 藤 恵 之 K44 白鷺特殊鋼(一般・西)

【本 部】

代議員 H30年度 西川 芳久 C47 元・神戸製鋼所
同上 植田 康之 M⑩ 川崎重工業
参 与 同上 楠田 修三 A50 元・兵庫県庁

岡 山 支 部

支部長 野村幸宣 (C54) 幹 事 岡本研作 (Y54)
代議員 小倉俊彦 (A58) 浜野弘史 (Es56)
代議員 虫明正博 (K59)
幹 事 中村浩巳 (A54) 事務局
石井敏典 (G47) 〒701-0113 倉敷市栗坂467-22
齋藤 実 (C55) 虫明産業(株)内

尾 張 支 部

支部長 音 無 通 男 (W41)

平成31年度(2019年)支部総会は名古屋文理大学
文化フォーラムで4月13日(土)に開催します。

広 島 支 部

支部長 大 田 一 夫 (C47)

代議員 菱 川 躬 行 (E34)

E-mail : kazuo-ota0603@red.megaegg.ne.jp

岐 阜 支 部

支部長 元 島 栖 二 (D40)

事務局 関 尾 光 正 (D41)

山 陰 支 部

支部長 糸 賀 輝 穂 (C51)

評議員 土 肥 美 実 (C57)

幹 事 森 下 博 (C56)

香 川 支 部

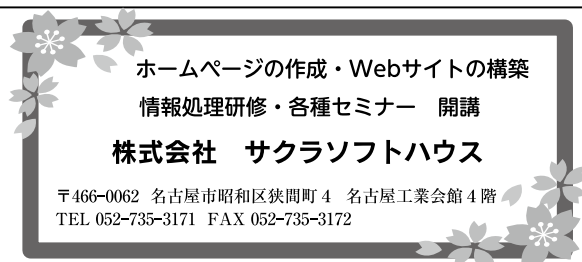
支部長 藤 川 智 (E52)

九州支部 *Challenge 50!*

魅力ある春の見学会・秋の支部例会。
皆さまのご参加をお待ちしています。
お問い合わせは下記メールアドレスまで!
Kyusyugokiso@nagoya-kogyokai.jp

株式会社 TYK

代表取締役会長 牛 込 進 (Y33)



ホームページの作成・Webサイトの構築
情報処理研修・各種セミナー 開講
株式会社 サクラソフトハウス
〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4 名古屋工業会館4階
TEL 052-735-3171 FAX 052-735-3172

総合印刷の 有限会社 栄光社

〒466-0035 名古屋市昭和区松風町三丁目4番地
ムツミヤビル2F
TEL (052) 848-6148(代) FAX (052) 848-6518番

UNIV. CO-OP 名古屋工業大学生協同組合

専務理事 今 井 靖 雄

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
TEL (052) 731-1600 FAX (052) 731-8726
E-mail : y-imai@nitcoop.or.jp

平成31年度 一般社団法人名古屋工業会 会員総会開催予告

日 時：平成31年5月18日（土）14：00～

場 所：名古屋工業大学内

会員総会：14：00～15：00

特別講演：15：30～16：45

懇 親 会：17：00～19：00

※なお、代議員による定期総会は12：30から開催します。

詳細は次号でお知らせします。

三河支部総会開催のご案内

今年の総会は下記の内容で行いますので、会員の皆様、是非ご参加願います。

日時：2019年3月10日(日) 11:00～14:00

場所：名鉄トヨタホテル7階 宴会場

会費：3,000円

名古屋工業大学吹奏楽団 第7回定期演奏会を開催

皆さんこんにちは、名古屋工業大学吹奏楽団（NWO）です。私たちは毎週月曜日と水曜日の17時から20時30分の時間に名古屋工業大学で活動しています。この1年間、当大学の学園祭である工大祭やホームカミングデーなど学内での演奏、また地域の老人ホームでの演奏会など様々な場所で演奏する機会をいただき多くの経験を積みながら仲間と一緒に過ごしてきました。総勢47名の部員の中には大学に入学して初めて吹奏楽の楽器を手にした部員も多くいますが、みんなで助け合い、学びあいながら練習に励んでいます。

そしてこの部活動の1年間の集大成として、2019年3月19日（火）に第7回定期演奏会を開催します。このように定期演奏会を開催することができるのも皆さま方のご理解ご協力のおかげと深く感謝しております。部活動は部員が自ら様々な課題と向き合い、協力しながら成長する場であり、この定期演奏会は私たちの企画力、運営力を試される大きなイベントです。お越しいただいた皆さんに楽しんでいただけるように想いを込めた演奏をお届けします。場所は去年と同じく天白文化小劇場で行います。開場時間は17時30分、開演時間は18時です。入場料は無料となっております。ご都合のつく方がいらっしやいましたらお誘い合わせのうえ、ぜひ会場まで足を運んでください。皆様のご来場を部員一同心よりお待ちしております。

これからも名古屋工業大学吹奏楽団のさらなる発展のため、ご声援のほどよろしくお願いします。



表紙写真説明

「徳川園の福寿草」

撮影者 名古屋工業会事務局

名古屋工業大学吹奏楽団

第7回

定期演奏会

入場無料

ご家族・ご友人
お誘い合わせの上
ご来場ください

2019.3.19 [火]

開演 18:00 (開場 17:30)

会場：天白文化小劇場

名古屋市天白区原一丁目

301番地 原ターミナルビル4階

TEL 052-806-8060 FAX 052-806-8050

プログラム

《第Ⅰ部》

マーチ「プロヴァンスの風」 田坂直樹

「風紋」 保科洋

「民衆を導く自由の女神」 樽屋雅徳

《第Ⅱ部》

アンサンブルステージ

《第Ⅲ部》

交響組曲「ハリー・ポッターと賢者の石」

ジョン・ウィリアムズ/arr.ロバート・W・スミス

その他ポップス



※公共交通機関を御利用ください

【交通アクセス】

◎ 地下鉄鶴舞線「原」下車2番出口すぐ

◎ 市バス「地下鉄原」下車すぐ

最新情報はこちら

HP <http://nwo.club.nitech.ac.jp/wordpress/>

Twitter @nitwindorch

お問い合わせ nitwindorchestra@gmail.com



主催／名古屋工業大学吹奏楽団 後援／名古屋工業会

(株)ブライダルは 名古屋工業大学会員の皆様の 「結婚」を応援します。

41年の実績
(一橋大コースetc)



左のQRコードにて携帯サイトに
簡単にアクセスできます。
(一部対応しない機種がございます。)

名古屋工業大コース

これをご覧になったとおっしゃってください

登録料 **50 % OFF**

ブライダルコース ¥226,800→¥210,600 etc.

エクセレントコース ¥388,800→¥372,600 etc.

価格は登録料・会員サポート費・年会費(12回分)の税込総額です。

- 成婚率は業界トップクラス。
- 入会審査有り。
- 都庁・官公庁・有名大学などでメディア展開。
- お客様満足度NO.1のお世話を目指し少子化問題にも貢献。

株式会社 **ブライダル** お問い合わせ 0120-415-412
http://www.bridal-vip.co.jp
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

60名のデンソー等企業出身者が御社の課題を解決します!

技術支援

メカから電気・電子、半導体まで
開発設計、品質、生産技術、生産まで

研修・講演

技術系全25講座 一材料、加工、設計、電気・電子、
組込コンピュータ、各種要素技術…
品質系全30講座 一DRBFM、なぜなぜ分析など
各種未然防止手法
マネジメント系全10講座 一経営品質、もしどらり・ダシブ、
プロジェクト管理…

WORLDTECH

株式会社ワールドテック

代表取締役 寺倉修(F50)

〒460-0008 名古屋市中区栄5丁目28番12号 名古屋若宮ビル6階

TEL: 052-211-7861

FAX: 052-211-7862

E-mail: solutions@worldtech.co.jp

企画から製本まで承ります。

企画・デザインから製本まで
トータルサポートでお値打ち!!

デザイン

名刺・ハガキ・封筒・チラシ・カタログ・
パンフレット・ポスター・定期刊行物
etc.
タイプ・電子組版時代から築き上げら
れたノウハウはDTPにおいて、特に
不得意とされる縦組みの書籍・表組み
の頁物も得意分野です。

印刷

カラー印刷・2色刷り・1色刷り・特色
刷り、品質・部数・ご予算に応じて提供
いたします。
Macintoshのみならず、ワード・大
部等の通常のオフセット印刷に過ぎな
いWindowsデータの出力ノウハウも
ありますのでご相談ください。

製本

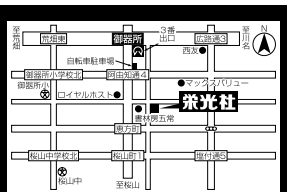
自分史・体験記・詩歌・俳句・小説・エ
ッセイ・童話・絵本等、自分の本を作りた
いとお考えの方。
各種マニキュア・広報・配布文書・名刺
・クラブ・サークル誌・宣伝物等、製本で
お困りの学生・法人の方、少ロットより
お手伝いします。

総合印刷の



有限会社 **栄光社**

〒466-0035 名古屋市中区松風町三丁目4番地 2F
TEL. (052) 848-6148
FAX. (052) 848-6518
URL http://www2.ocn.ne.jp/~eik/
E-mail eikou@theis.ocn.ne.jp



広報委員会

委員長 森川 民雄 (W45)

学内

学外

吉田 亮

林 幹雄 (SC①)

北川 啓介 (SA⑧)

浅野 健 (SU⑥)

田川 正人 (M56)

廣瀬 光利 (E50)

酒向 慎司 (I⑪)

吉木 満 (W56)

山本 勝宏 (ZW⑥)

高取 奨 (D⑥)

安井 孝志 (D62)

野々山尚志 (Y63)

本多 沢雄 (ZY⑥)

大矢 泰正 (K52)

小坂井孝生 (K49)

守田 賢一 (F47)

米谷 昭彦 (F60)

入倉 則夫 (B47)

川村 大伸 (SS⑩)

三田 晴伸 (名古屋工業大学 広報室)

一般社団法人名古屋工業会会誌 「ごきそ」に広告を掲載しませんか

「ごきそ」は隔月発行し、会員・広告
主・関係官庁・各学会・大学・図書館等
に頒布されています。

詳細は名古屋工業会のホームページ

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

でご確認ください。

※広告を募集中です。お問い合わせは名古屋工業会 E-mail: gokiso@lime.ocn.ne.jp までお願いします。